

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

評価対象事務事業名	橋りょう補修事業				事業コード	1441
担当課等	所属名	建設部 道路管理課			担当係名	
	課長名	建設部 道路管理課	担当者名	藤井 英樹	電話番号	2719

1. 事務事業の基本情報

総合計画体系	施策の柱	快適な都市機能	コード 7	施策	快適な居住環境の実現	コード 3
	基本事業	生活道路環境の向上	コード 1	関連予算 費目名	一般会計 8款 2項 5目 橋りょう維持補修事業(001-01)	
	特記事項					
事業期間	○ 単年度 ● 単年度繰返 ○ 期間限定複数年度				⇒ (開始年度 不明年度～)	
事務事業の概要	橋りょうの補修、補強、塗装等を実施し、耐久性の向上と道路交通の安全を図る。					
根拠法令等	道路法					
この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)						
主要河川の合流点を中心に市街地が形成される本市においては、昭和初期以前に架橋され現在に至るもの、また高度成長期(昭和40年前後)に架橋された橋梁が多く、近年これらの老朽化が顕在化しており、補修や延命処置の必要が生じている。						
この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか						
老朽化の進行した橋梁が多く補修(詳細調査)が必要であるが、対応が遅れており、市民・町内会・議員からの要望がある。						
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどう変化したか。今後の見通しはどうか						
高度成長期に架橋された橋梁が耐用年数を迎える状況にあるが、補修対応が遅れており、危険性が増している。今後益々既設橋梁の老朽化が進むことから、補修の必要性は増大する一方である。また、近年大規模な地震により災害が発生しているが、本市で耐震補強の完了している橋梁はごく僅かである。このような状況は全国的に共通しており、平成15年4月に国土交通省道路局より「道路構造物の今後の管理・更新等のあり方に関する提言」が出されている。この中では構造物は資産としてとらえ、状態の客観的把握・中長期的状態予測・効果的な対策(アセットマネジメント)の導入が提唱されており、平成21年度から橋梁点検における地方公共団体を対象とした補助制度要綱が制定されている。当市では平成21年度から橋梁点検を実施し、平成25年度までに橋梁の長寿命化修繕計画を策定する予定である。						

2. 事務事業の実施状況(Do)

①対象 (誰を、何を対象としているのか)	過年度の一次点検(目視、委託)で詳細調査、補修が必要と判断された「橋りょう」	⇒	②対象指標 (対象の大きさを示す指標)	A. 補修工事を予定する「橋りょう」数	単位	橋
				B.	単位	
				C.	単位	
③手段 (事務事業の内容、やり方、手順)	22年度実績(22年度に行った主な活動) 点検により補修が必要とされた「橋りょう」の補修工事、並びに管理している「橋りょう」の点検を実施した。 23年度計画(23年度に計画している主な活動) 点検により補修が必要とされた「橋りょう」の補修工事、並びに管理している「橋りょう」の長寿命化修繕計画を策定予定である。	⇒	④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)	A. 補修工事を予定する「橋りょう」数	単位	橋
				B. 橋梁点検を予定する「橋りょう」数	単位	橋
				C. 長寿命化修繕計画を予定する「橋りょう」数	単位	橋
⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか)	補修整備することにより、重大な事故(落橋)の未然防止と、生活道路の機能・安全確保を図る。	⇒	⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標)	A. 事業実施「橋りょう」数 【指標の性格:● 上げる ○ 下げる ○ 維持する】	単位	橋
				B. 【指標の性格:○ 上げる ○ 下げる ○ 維持する】	単位	
				C. 【指標の性格:○ 上げる ○ 下げる ○ 維持する】	単位	
⑦結果 (上位基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するか)	道路環境の向上が図られる	⇒	⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標)	市道改良率(単位:%) 市道除雪率(単位:%)		

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	目標年度 目標値
対象 指標A	補修工事を予定する「橋りょう」数	橋	1	1	1	1	1		年度
対象 指標B									年度
対象 指標C									年度
活動 指標A	補修工事を予定する「橋りょう」数	橋	1	1	1	1	1		年度
活動 指標B	橋梁点検を予定する「橋りょう」数	橋	0	290	296	279	0		年度
活動 指標C	長寿命化修繕計画を予定する「橋りょう」数	橋	0	0	0	0	117		年度
成果 指標A	事業実施「橋りょう」数	橋	1	1	1	1	1		年度
成果 指標B									年度
成果 指標C									年度

⑩事務事業に係る事業費

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	*****
事業費	A	千円	9,600	24,897	37,000	19,501	21,000		*****
財源 内訳	④国	千円	5,280	17,898	12,250	7,618	11,000		*****
	⑤県	千円			14,000	5,232			*****
	⑥地方債	千円							*****
	⑦一般財源	千円	4,320	6,999	10,750	6,651	10,000	0	*****
	⑧その他	千円							*****
	合 計 (④～⑧) (=A)	千円	9,600	24,897	37,000	19,501	21,000		*****
	延べ業務時間数	時間	200	500	750	400	400		*****
	職員人件費 (B)(臨時職員賃金は、事務費に含む)	千円	800	2,000	3,000	1,600	1,600	0	*****
	トータルコスト (A) + (B)	千円	10,400	26,897	40,000	21,101	22,600	0	*****

3. 事務事業の評価(See)

必要性評価	①施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか？	☐ 見直す余地がある ☒ 結びついている	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	理由: 当市は河川合流点を中心に市街地が形成されており、これらに架かる橋梁は生活道路として、また災害時の緊急避難路としても重要であり、橋梁の安全確保は必要である。		
	②公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか？ 税金を使って達成する目的ですか？	☐ 見直す余地がある ☒ 妥当である	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	㊦「妥当」とする理由: ☒ 法定事務である ☐ 内部管理事務である ☐ その他 理由:		
	③対象の妥当性 対象の設定は現状のままでいいですか？ 広げられませんか？ また絞らなくてよいですか？	☐ 拡大または絞る余地がある ☒ 現状で妥当である	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	㊦「妥当」とする理由: ☒ 法定事務である ☐ 内部管理事務である ☐ その他 理由:		
	④意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか？	☐ 拡大または絞ることができる ☒ 現状で妥当である	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	㊦「妥当」とする理由: ☒ 法定事務である ☐ その他 理由:		
有効性評価	⑤成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？	☐ 向上余地がある ☒ 向上余地がない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	理由: 限られた予算内での最低限の維持・補修である。		
	⑥廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか？	☐ 影響がない ☒ 影響がある	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	その内容: 安全な通行が困難となり、市民生活に影響が生じる。		
	⑦類似事務事業との関係 類似の事務事業(国、県、市の内部、民間)はありますか？	☒ 類似事業がある ☐ 類似事業がない	
	事業名: 国県道の維持管理事業		
	※類似事業がある場合、その事務事業と統廃合又は連携を図ることにより成果向上はできませんか？ 統廃合・連携検討 ☐ できる ☒ できない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ 理由: 道路管理者が異なることから、統廃合は出来ない。		
効率性評価	⑧事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できる余地はありますか？	☐ 削減余地がある ☒ 削減できない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	理由: 橋りょうの機能維持のための補修である。		
	⑨人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？	☐ 削減余地がある ☒ 削減できない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	理由: 継続的な点検・補修が必要であり、削減の余地はない。		
公平性評価	⑩受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか？	☐ 適正化余地がある ☐ 公平・公正である ☒ 特定の受益者はいない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	理由:		
	⑪費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか？	☐ 適正化余地がある ☐ 公平・公正である ☒ 特定の受益者はいない	⇒ 4. 事務事業の改革案へ
	理由:		

4. 事務事業の改革案(Plan)

改革／改善方向	①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1、代替案その2とすること 目的妥当性評価や有効性評価等が明確であり、現状維持とする。
	②改革、改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか？ それをどう克服していきますか？ (関連部門や全庁的な調整の必要性、トップへの要望も含む) 道路橋の「長寿命化修繕計画」を策定し、計画的及び効率的に橋りょうの修繕を実施する必要がある。

5. 課長意見

一次評価	(1)一次評価者としての評価結果 ① 必要性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり ② 有効性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり ③ 効率性 ○ 妥当 ● 見直し余地あり ④ 公平性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり	(2)全体総括(振り返り、反省点) ・老朽化等により、補修が必要な橋りょうの適正な維持管理を行うため、必要な事務事業である。				
	(3)今後の事務の方向性(改革改善案) <table border="1"><tr><td>☐ 終了 ☒ 継続</td><td rowspan="2">→</td><td>☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)</td></tr><tr><td>☐ 廃止 ☐ 休止</td><td>☒ 改革改善を行う ☐ 事業統廃合・連携</td></tr></table>  方向付けの理由と改革改善の内容 ・道路橋については、「長寿命化修繕計画」を策定し、計画的及び効率的に修繕を図っていく必要がある。		☐ 終了 ☒ 継続	→	☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	☐ 廃止 ☐ 休止
☐ 終了 ☒ 継続	→	☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)				
☐ 廃止 ☐ 休止		☒ 改革改善を行う ☐ 事業統廃合・連携				